

国際化学工業協会協議会(ICCA)の 高生産量既存化学物質(HPV)の自主点検プログラム

営業本部 東京営業所 花井 正博

高生産量化学物質(HPV)とは、1カ国で年間1,000ト以上の生産量のある物質と定義されており、約4,100物質が該当します。

ICCAは化学物質の健康や環境に与える影響に関して国際連携のもとで長期的に自主研究を行うことを1998年10月のICCA総会で決定しました。その中で、HPVについても自主的に2004年までに1,000物質点検評価することとしています。

現在ICCAは欧米日を中心にした1,000物質の生産者、使用者に呼びかけて物質ごとまたは物質群ごとにコンソーシアムを作り、そのグループごとに点検評価を行うプログラムを実行中です。

日本では、(社)日本化学工業協会がICCA対策チームを設置して牽引役となり、ICCAや日本政府等との調整などを行っています。

背 景

化学物質の適正管理に関する国際合意と具体的な取り組み課題については、1992年の地球環境サミットの合意文書“アジェンダ21”に記載されています。

その内容は、国際的な協力とともに、政府・事業者協同して、安全性評価のためのデータが充分でない等の理由により初期リスク評価が行われていない物質について、必要に応じて試験を実施するなどしてハザード評価を実施し、暴露状況・レベルに関する暴露評価と併せて、人の健康・環境への影響のリスク評価を実施し、その結果に基づいてリスク管

理・リスク削減を行おうというものです。日本政府もこの計画に参画しています。

OECDのHPV点検プログラムは、加盟各国で分担してHPVについてSIDSを収集し、そのハザード/リスク評価を実施するプログラムであり、国際協力活動の中心的役割を担うものです。1992年から加盟各国で分担して進められてきており、現在までに約300物質の点検を終了しています。しかしながら、近年の化学物質に対する関心の高まりに対応してOECDでも加速プログラムをスタートさせています。

前述のICCAのプログラムは、ハザード評価/SIARドラフト作成までを自主的に行おうとする産業界の活動を、効率よく行うために世界的に集約したものです。

評価までのステップ

初期リスク評価は次のようなステップを踏んで進められます。

物質ごとに国際コンソーシアムを形成
リーダー企業の決定
スポンサー国の決定
既存データの評価
試験計画作成
役割分担とコスト負担の合意
試験計画の確定・実施
データパッケージ作成
スポンサー国での評価および初期評価レポート(SIAR)ドラフト作成
OECDで評価
必要となればさらに試験実施

評価に必要なデータ

1) 初期リスク評価に必要なデータ・セット(SIDS)

以下の項目などが例示されています。

物理化学的性状データ：融点、沸点、蒸気圧、水/オクタノール分配係数、水溶解度

暴露の発生源とレベル：生産量、用途、使用範囲

環境中動態：生分解性、加水分解性、光分解性、環境運命、環境予測濃度

生態毒性データ：魚・ミジンコ・藻類への急性毒性、ミジンコへの長期毒性

毒性データ：急性毒性、反復投与毒性、生殖毒性、変異原性試験

2) データの質

OECDテストガイドライン(または国際的な評価に耐えうる各国テストガイドライン)を基本とし、OECD(または各国)のGLP基準対応で行うこととなっています。

HPV点検プログラムを遅滞なく進めることは、得られた情報をもとに、国際評価に耐え得るSIARドラフトをいかにして作り上げるかにかかっています。

脚注

ICCA : International Council of Chemical Associations

HPV : High Production Volume Chemicals

SIDS : Screening Information Data Set

SIAR : SIDS Initial Assessment Report

